

中間土場仕分けによる原木有利販売

1. しまね東部森林組合の概要

【管轄】安来市(旧安来市、旧伯太町、旧広瀬町)
 【民有林面積】58,430 ha
 【原木生産量】5,223 m³ (R5実績)

2. 取組の経過及び概要

(1) 原木有利販売の課題

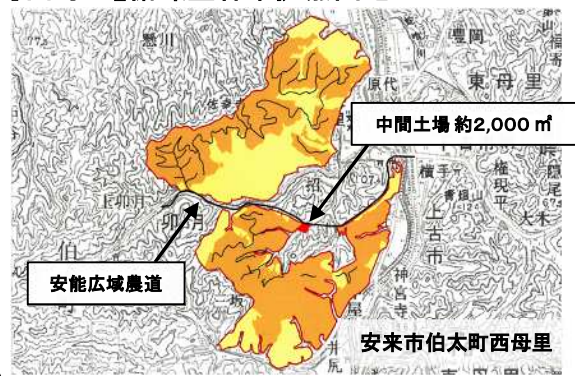
高値で取引されるスギ・ヒノキ(A・B)材の需要はあるが、それに対応できる仕分け体制が未整備。

(2) 取組の概要

仕分け体制を整えるため、R2年度末に安来市伯太町西母里に中間土場を設置。
 伐採現場(山土場)において生産材を粗仕分け後、中間土場に運搬し、そこで細かく仕分け、最も高値となる出荷先へ販売。



『西母里』循環型林業拠点団地



- ・広域農道に隣接し、大型トラックの発着可能。
- ・大きな伐採計画のある2団地(262ha)に隣接。

3. 取組の成果

(1) 仕分けの徹底による販売単価の向上

中間土場において仕分けを徹底することでスギ・ヒノキの高値で取引されるA・B材出荷量が大幅に増加。
 ウッドショックによる材価高騰は落ち着いたが、平均単価も高水準を維持。

【表】スギ・ヒノキの出荷量／m³単価

	R2	R5	
A・B材出荷	1,149m ³	3,617m ³	215%up
m ³ 単価	8,265円	12,293円	49%up



(2) 新たな販路開拓

新規販路としてCLT(直交集成材)・LVL(単板積層材)工場へ出荷を開始。

出荷先のニーズに応えるため、中間土場に出荷先の担当者を招き目合わせを実施することで、森林組合職員が実際に土場にある材の受け入れ適否(径級・素性等)が判断できるようにスキルアップ。

代表者から一言

「材仕分けの徹底により収益を高め、林地所有者への利益還元アップに努めたい。」

しまね東部森林組合 山本廉士 林産計画課長

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 中間土場近傍の『西母里』循環型林業拠点団地での伐採を行い、中間土場に材を蓄積。
- (2) 周辺の伯太エリアの伐採現場で粗仕分けされた材も中間土場に集積し、ロットを確保。
- (3) 中間土場で出荷先のニーズに合った仕分けを徹底し、大型トラック輸送によりコストを低減。